

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【高砂小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	前項でも触れたが、本校はどの調査結果も結果平均が高く、異集団の経年変化比較で向上させることを目標にすると目標の困難度が高くなってしまふ。次年度は、重点項目を絞って市平均と比較したり、同集団の経年比較をしたりして目標を設定したい。国語はさいたま市でも課題となっている「話すこと・聞くこと」についての内容を重点領域として追加し、教科横断的に「話すこと・聞くこと」についての学びを深められるようにする。算数は引き続き図形領域の学習を重点とし、ICTと具体物を効果的に用いながら児童が理解を深められる学習について研修を進めたい。
思考・判断・表現	「資料や情報等を整理したり分析したり、伝えたいことを順序立ててまとめ、表現したりする力」が引き続き本校の課題であることが分かった。特に算数ではグラフの読み取り等「データの活用」に関する課題が見られた。社会科でも複数の資料を関連付けて考察する設問に課題が見られたことから、これを重点課題とし、どの教科においても根拠を示しながら考えたり、表現したりする活動を推進したい。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度の「主体的で深い学び」に関する5つの質問項目全てで肯定的な回答が90%を超えており、自ら学習に取り組む児童が育っていることが分かる。本校の課題研修のテーマに「つなげる」や「いかす」が掲げられていることから、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」や「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」といった項目で同集団経年比較をしていきたい。手立て等は学校課題研修で考えていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	国語の「主語や述語を捉えること」、算数の「図形の構成・定義や性質」が明確な課題であることが分かった。経年変化でその部分の改善を目指す。具体的な数値目標としては、前年度さいたま市学習状況調査の結果から、同項目で3ptの向上を目指す。	⇒ 各研究パートがさいたま市学習状況調査で見られた課題に取り組むことをパート研究の重点の1つとする。また、6月に実施される指導訪問の授業づくりの重点として、昨年度の学習状況調査で出た課題に取り組むことを位置付ける。
思考・判断・表現	「資料や情報等を整理したり分析したり、伝えたいことを順序立ててまとめ、表現したりする力」が明確な課題であることが分かった。経年変化でその部分の改善を目指す。具体的な数値目標としては、思考・判断・表現の結果を3pt向上させることを目指す。	⇒ 年間を通して計画的に学び方を学ばせる。「さいたま市『アクティブラーニング』型授業の推進」を参考に、学習者が多様な学び方や表現方法を選択できるように準備するとともに、一人ひとりに合った細やかなフィードバックを行う。特に課題となっている部分には重点的にフィードバックをする。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査(授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか)の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 学び合う集団づくりの研修を進める。本校は学習の土台を集団づくりとしている。その部分について校内研修を通じて全校で高めていく。また、課題発見から課題の設定、学習計画づくり、学び方の選択、表現方法の工夫などを学習者自身が考えて自律的に学べるように教員がファシリテーターする。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語「主語と述語の関係」市平均との差による経年比較、3年:+7.4、4年:+10.8、5年:+1.6年:+6.5、算数「図形の構成・定義や性質」市平均との差による経年比較、3年:+4.3、4年:+1.5年:-2.7、6年:+5.5となった。昨年度も市平均を上回っていたところからこの上昇結果が得られたのは大きな成果であると考え。	A
思考・判断・表現	国語、算数における「資料や情報等を整理したり分析したり、伝えたいことを順序立ててまとめ、表現したりする力」について思考・判断・表現の結果から読み取ったところ、3年、6年は3ptの向上を達成し、4、5年は達成できなかった。今年度の目標は「異集団の経年変化による比較」によって設定したが、本校の実態に合った目標設定ではないことが分かったため、次年度改善したい。	B
主体的に学習に取り組む態度	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目において肯定的な回答をした児童の割合は5年:93.3%、6年:94.5%であり、目標の90%を達成した。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語については前年度比±0であったが、課題であった知識及び技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」は改善が見られた。算数は図形の問題で全国平均を大きく上回るなど、大変良い結果が得られた。前年度比でも向上した。前年度と問題、対象児童が異なるため安易な比較はできないが、今回の結果を見る限り、取組の成果が現れているものと考えられる。
思考・判断・表現	国語の課題は、図表を読み取った上で自分の考えを書く問題で、記述式の問題では無解答率も上がっていた。算数でも記述式の問題で正答率、無解答率に課題があった。全国平均も一様に低いので、比較するとよくできてはいたが、読み取ったデータ等を基に自分の考えを構築する活動は多く取り入れていく必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	前年度、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目において肯定的な回答が9割以上と高く、今年度も90%を超えることを目標としていた。今年度も9割以上を達成する肯定的な回答を得た。何がこの結果に作用したのか広い視野で分析し、次年度以降もこの結果が得られるように教育課程に反映させたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語、算数ともにさいたま市平均より3ポイント以上高い正答率を得られた。今年度の課題としていた「主語と述語の関係」の設問では、市平均より10ポイント以上高い正答率であったものの、他の設問と比較するとまだまだ課題は残る。算数の図形問題は正答率が非常に高く、児童が図形についての理解を深めていることが読み取れた。	小4	国語、算数ともにさいたま市平均より3ポイント以上高い正答率を得られた。「主語と述語の関係」の設問では、市平均より20ポイント高い正答率の設問も見られた。算数の図形問題でも総じて高い正答率で、理解の深まりが読み取れた。課題として挙げられるのはグラフの問題で、スケールが違うグラフを比較する設問においてさいたま市平均を下回った。
小5	国語、算数はさいたま市平均より3ポイント以上高く、社会、理科は市平均より高い正答率を得られた。「主語と述語の関係」の設問は市平均より10ポイント以上高い正答率があり、知識の定着が見られた。図形領域では、面積を求める設問の正答率はよかったものの、図形の角、展開図、合同な図形等の設問では、引き続き本校の課題であるといえる結果が見られた。	小6	国語、算数、社会、理科ともにさいたま市平均より3ポイント以上高い正答率を得られた。国語の「主語と述語の関係」、算数の図形領域どちらも市平均を大きく上回る正答率であった。しかしながら、本校の結果で他の領域と比較すると正答率が低い部分ではある。全体的に良い結果であったが、あえて課題としてあげるなら、引き続きこの2つの分野が挙げられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし